

Libra | on

vol. 47

りぶらいおん

<http://www.libra-sc.jp>

特集1: 「りぶら」の魅力を多くの方に届けたい

社会文化部 市民協働推進課長 草次 君子

特集2: 秋のイベントレポート

「WithYou! フェスタ」「ハッピーハロウィンりぶら」「りぶらまつり」



- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.42 『楽園』
- 「岡崎歴史探求班」連載の1



「りぶら」の魅力を多くの方に届けたい

社会文化部 市民協働推進課長 草次 君子（くさつぐきみこ）

本年4月から組織改正により文化活動推進課は、市民協働推進課に課名が変更となりました。担当する業務内容については、文化活動推進課で担当していた業務に加え、ジャズの街岡崎発信事業や市民協働の推進に取り組んでまいります。市民協働の理念にもあります「お互いの立場を尊重する思いやり」を忘れず、様々な事業を進めてまいりたいと思います。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

私は前年度までこども部こども育成課に7年間在籍しておりまして、放課後児童クラブや放課後子ども教室など、主に小学生の放課後対策に関わる業務を担当しておりました。直接子どもたちと接することは少なかったですが、「子どもたちの笑顔」を思い業務を推進してまいりました。

私事ではありますが、2人目の孫が最近生まれ、イクばあ（まだまだ若いと思っていますが）奮闘中

というところです。4月に異動してきて、イクばあが目線で改めてりぶらを見て、子育て中のパパやママたちにとってもやさしいサービスがあることを知りました。託児サービスやちょい抱っこなど、昼間一人で子どもを抱えてストレスを溜めているママたちが、りぶらに来て「ふう〜」と力を抜く時間が持てて、また子育てのパワーが出るって素敵なことですね。

りぶらには、子育て中の方ばかりではなく、市民の皆様が楽しく利用できる事業がたくさんあることも異動して初めて知りました。りぶらの開館から10年、「お互いの立場を尊重する思いやり」のあるりぶらサポータークラブに支えられて、りぶらが多くの市民に愛される施設となってきたことを実感しています。

もっともっと多くの市民にりぶらの魅力を知っていただけるよう情報発信していきたいと思っています。



ダースベイダーに扮した内田市長と市民活動推進課のミニオンズ職員で、「Happy Halloween りぶら」を盛り上げました（右前列が本人）。

WithYou! フェスタ 2017 レポート

10月14日・15日



男女共同参画の推進を図る上で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が重要となります。仕事と生活の調和を実現することで、一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて、多様な生き方が選択・実現できる社会を目指しています。現在、介護離職者は年間10万人と言われ、労働力不足が深刻化しており、2025年には団塊の世代が後期高齢者をむかえ、全人口の3割以上が65歳以上高齢者となり、更なる介護離職者の増加による社会問題が懸念されています。

こうした社会状況を踏まえ、「仕事と介護の両立」をテーマに、「すてきな いきかた かんがえよう With You! フェスタ」を、10月14日（土）・15日（日）に開催しました。介護ロボット・福祉車両等の展示／体験、女性映画監督安藤桃子氏によるトークショー、映画上映、認知症予防運動「コグニサイズ」、事業所向けセ

担当：男女共同参画課（電話：23 - 6222）

ミナーなど様々なイベントを実施しました。また、仕事と介護の両立に役立つ情報をパネル掲示し、来場者からは、仕事と介護の両立を図る上で非常に参考になった、との感想が多数寄せられました。両日とも雨天と、あいにくの天気でしたが、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方がご来場くださりました。



介護ロボット等の展示／体験では、多くの事業所のご協力もあり、普段見慣れないたくさんの介護ロボット等を、みなさん興味津々に体験されていました。現在私たちの生活には、ロボットなど、機械がありとあらゆる場面で利用されており、現代社会において必要不可欠なものとなっています。この度出展されたロボットの一部は、スマートフォン、コミュニケーションロボットなどとして家庭用、ビジネス用に開発されましたが、既存の枠に捉われず、要介護者の介護負担の軽減などのため介護分野においても徐々に利用が始まっています。

私たちの生活において、既存の観念に捉われてしまっていることはありませんか？ 現代社会は、グローバル化、少子高齢化、情報化などにより、めまぐるしく変化しており、柔軟性やダイバーシティ（多様性）が求められています。「すてきな いきかた かんがえよう With You! フェスタ」は、ダイバーシティ推進フェスティバルとして、毎年テーマを変えて開催しています。次年度以降も、市民のニーズに沿ったテーマで開催し、男女共同参画の推進を図ってまいります。



ハッピーハロウィンりぶら 2017 レポート

10月29日



ボランティア・行政担当者・業者・りぶらサポータークラブの運営委員での第1回実行委員会を6月17日に開催後、5回の実行委員会を経て10月29日に「ハッピーハロウィンりぶら 2017」を開催しました。台風22号の接近に伴い屋外での実施ができず、事前に協議してあった雨天等の対応に基づき、予定したイベント全てを館内に移し、キッチンカーの皆様にも、りぶら南西外側のストリート広場で店舗展開していただくことになりました。

りぶらでは2回めの、「ハッピーハロウィンりぶら」は、今年から「Day Time（一般・子供向け）」に「Night Time（若者向け）」も加えた二部構成で実施しました。「Day Time」では6回の会議を通じ、「かぼちゃポーリング」・「かぼちゃたねとぼし」の開催や、中部美容学院様の協力のもと「ヘアメイク体験」・「特殊メイク体験」の実施や、岡崎女子大のはとぼっぼ様によるイベントやコスプレフォト aoi 様の協力のもとにハロウィン衣装の貸出を



しました。また、前日の Quruwa イベント等で作成したハロウィン仕様の「空き缶ドル」等々、奇跡的な小降りの中、昨年以上に充実したハロウィンとなりました。

他にも、昨年同様ダース・ベイダーに扮した内田岡崎市長様やオカザえもん様を向かえてのオープニングから始まり、昨年よりも迫力の増した「仮装コンテスト」、スクエア様・てるてる kids 様による「キッズダンス」・「仮装パレード」、げもげもコーポレーション様による「フェイスペイント体験」と盛りだくさんのプログラムを実施しました。特に「仮装パレード」では、お菓子を入れる袋を持って3箇所のポイントでりぶら館内を歩き回る300名ものお子様とご家族の笑顔が溢れていました。また、イベントのメイン会場をりぶらホールに移動したことで、インスタ等のSNSでの発信も期待して「Night Time」用に用意したフォトエリア（檻）も、「Day Time」参加者にご利用いただき好評を得ていました。

「Night Time」は、協議の結果高校生以上の入館を認める方向で話がまとまり、先着100名様に、目玉ゼリー入りドリンクの提供や、Freeドリンク・お菓子の提供をしました。ステージでは、実行委員長（りぶらサポータークラブ 杉浦）の挨拶の後、岡崎の歌姫「今岡友美さんのJazzライブ」・



「Manacha(MC)&SEQXによるParty Time」・「ワルざえもんステージ」と、石崎功氏による映像演出とともに楽しい時間が流れ、参加者全てが一つになって時間を共有しました。

「ハッピーハロウィンりぶら 2017」の全てのイベントが終わった時には、台風の影響もほとんど無く、りぶらでの時間を懐かしく思わせるほどでした。また、りぶらでのハロウィン終了後には、康生町のお店の皆様の協力を得て、街でもハロウィンを楽しめる仕組みも用意し、街の情報誌「corin」や「リバ10月号」を利用した広報も初めての試みでした。あいにくの天候もあって、広報の効果は確認できなかったものの600名程の参加者をいただき、「ハッピーハロウィンりぶら 2017」を終了できたことに感謝します。

りぶらまつり 2017 レポート

11月11日・12日



りぶらでつながりんぐ

11月11日(土)・12日(日)「りぶらまつり2017」が開催されました。今年度の大型イベントは、悪天候の予報に悩まされながらの開催でしたが、「りぶらまつり」は、上天気の中で2日間を楽しく過ごすことができました。

催事は、武将隊演武・フラダンス・太極拳・認知症啓発・絵手紙・癒しの広場・高齢者体験・耳マーク啓発・缶バッチづくり・スリランカ支援・平和を考える座談会などに加え、ピザづくり・バレエ発表・占い・細工風船など、新しい催事も加わり、年々多彩になっています。今年度から名を改めた「フードコート」には、焼きそば・たこ焼き・豚汁・クレープなどの店舗が並びました。

また、今年度は実行役員として参加された方の特技を生かし、ホール司会をお願いしました。催事参加もされた「手話サークルかやくごほん」の皆さんには、オープニングとエンディングのセレモニーで、手話通訳をお願いすることもできました。これまで、防災講座やバリアフリー講座を行ってきた実行委員会内でのミニ講座では、「さくらの里」職員による、誰もが安心して楽しめるまつりにするための「高齢者への接し方講座」を開催しました。



「自らが参加し自らが創造するりぶらまつり」、そして「誰もが安心して楽しめるりぶらまつり」のコンセプトが毎年育っています。来年は、節目となる10回目を迎えます。さらなる新しい「出会い」と「学び」をお届けできるよう、前進していきたいと思えます。

【りぶらまつり 2017 の記録】

来館者数	11日	7,162人
	12日	6,648人
	合計	13,810人
プログラム数	46団体 54催事	
フードコート出店数	10店舗	
実行委員数(当日人数)	46団体 508人	
ボランティア数	14人(延べ18人)	
シールラリー参加者数	732人	
寄贈景品	4,236点	
おみくじ件数	366人	
説明会参加人数	7/22: 15団体 22人	
実行委員会参加者人数	① 7/29	32団体 42人
	② 9/16	31団体 45人
	③ 10/22	32団体 47人
反省会	④ 11/25: 18団体 21人	

りぶら中央図書館情報

臨時休館のお知らせ

図書館システムの更新、中央図書館における蔵書点検の実施及び額田図書館の移転により、中央図書館等を休館すると共に、市民センター図書室での図書館業務を停止します。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

【図書館システム更新による休館等】

- 休館 中央図書館（りぶら開館日は、お城通りで返却のみ受付）
げんき館情報ライブラリー
- 図書館業務停止 市民センター図書室（資料の返却、館内での閲覧のみ可能）
- 期間 平成29年12月25日（月）から平成30年1月10日（水）まで
※12月24日（日）、25日（月）、12月29日（金）から1月3日（水）は市民センター休館日

【ホームページの停止】

- 期間 資料検索・予約・マイページなど：平成29年12月24日（日）21時から平成30年1月11日（木）9時まで
上記以外の機能：平成29年12月25日（月）17時から平成30年1月11日（木）9時まで

【額田図書館の移転による臨時休館】

- 休館 額田図書館
- 期間 平成29年12月20日（水）から平成30年2月12日（月）まで

担当：中央図書館 総務係（電話 23-3103）

中央図書館1階レファレンスカウンター「レファレンス事例集」

寒い冬は、暖かい部屋でじっくりミステリー小説など楽しみませんか。
「ミステリーの女王」と呼ばれた作家の作品についての事例を紹介します。



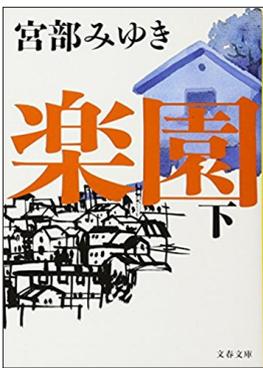
質問	アガサ・クリスティーの作品で、麻雀をやりながら謎解きをする場面があるが、どの作品か？
回答	原タイトル『The murder of Roger Ackroyd』 日本語タイトル『アクロイド殺し』『アクロイド殺人事件』であると思われる。 【資料1】【資料2】のアイテム事典・ゲームに「麻雀」の項があり、『アクロイド殺し』の記述あり。 「Google ブックス」【URL 1】にて「アガサ・クリスティー&麻雀」で検索すると、『日本史の謎は「地形」で解ける 環境・民族篇』にアガサ・クリスティーの『アクロイド殺人事件』で、麻雀をしながら殺人の推理をする場面が有名であるという記述あり。
キーワード	「アガサ・クリスティー」「麻雀」
参考資料	【資料1】『アガサ・クリスティー百科事典』数藤 康雄 編／早川書房／2004年 【資料2】『アガサ・クリスティー読本』H・R・F・キーティング 他著／早川書房／1990年 【URL 1】「Google ブックス」 https://books.google.co.jp/



私の一冊 vol.42

「楽園」上・下

宮部みゆき／著 文藝春秋



山本 晋平
(やまもと しんぺい)
中央図書館総務係勤務。
庶務事務を担当しています。

「人と違う生き方はそれなりにしんどいぞ」と、ジブリの映画『耳をすませば』の主人公の父親は言いました。中学生である主人公が“高校へ行かず、物書きになる”と言ったことを受けてです。その言葉の背景には「普通の人生」という価値観が存在しています。この考え方が正しいかどうかは置いておいて、多様化の進む現在の日本でも、いわゆる「普通の人生」という価値観は生き残っています。そして「何がおきても誰のせいにもできないからね」と父親は続けます。

この映画が放映された1995年当時では、この父親のように、若さゆえの行動をたしなめつつも一定の理解を示す男性は少なかったのではないのでしょうか。挑戦と苦悩の末に、主人公は高校へ進学することを決めるのですが、大人になって思うことは「普通の人生も十分しんどいよ」ということです。普通に生きているつもりなのに、誰のせいにもできないことは多いし、気苦労は多いし。

映画の話が長くなりましたが、今回取り上げた『楽園』についてです。この本では「近い人が道を踏み外したとき、どうするのか」ということが一つのテーマになっています。物語の中では、非行少女を持った夫婦が、ある事件をきっかけに自分の娘を殺して庭に埋めてしまいます。そして、庭に娘が埋まったままの家で15年間暮らして

いたところ、隣家の火事の延焼により娘の遺体が発見されてしまい、夫婦は自首をするのだが…、という所から話は進んでいきます。

もし友人が、恋人が、家族が道を踏み外しそうになったとき、自分には何ができるのか、そんなことを否応なく考えさせられます。「普通の人生」も、ちょっとしたきっかけで簡単に失われてしまい、一度失われてしまったら二度と取り戻すことができない。そう思うと、なんだかやりきれないですよ。ちなみに、中学1年のときに好きだった女の子は不良の先輩と付き合いだして、髪を茶色く染めて、だんだん派手になっていって話すこともなくなり、ということがありました。先日久しぶりに会ったら2児の母になっており、とても幸せそうでした。そういうこともあるんですね。

この話の登場人物はとにかく不幸な人物が多く、そして、その多くは幸せを願って行動しているのに、結果的に自身を不幸にしていくので、非常に胸が苦しくなります。ラストでは部分的に救いがあるものの、読み終わった後に落ち込んでしまうタイプの本ですので、青春映画などで気分が明るくなるものを準備してから読んでみてください。また、時系列で繋がっておりますが、前の話にあたる「模倣犯」を読んでいなくても十分楽しめる内容ですので、ご安心ください。

外国人が
日本語の歌を歌う
のど自慢大会 vol.8
出演者受付中!!



2018年2月4日(日)
予選: 13:00 ~ 14:30
決勝: 15:00 ~ 16:00
場所: リぶらホール

歴史ロマンで岡崎・三河を盛り上げる『岡崎歴史探求班』

連載の1

三田村千晴 : 0564-32-2560 roze31800@yahoo.co.jp

前回、市民活動団体としてご紹介した『岡崎歴史探求班』の三田村さんに、「りぶら」を活用した活動内容を詳しく紹介していただく事になりました。図書館の資料と現場をつなぐ、岡崎の歴史探求の連載です。

こんにちは。『岡崎歴史探求班』です。私たちは歴史好きの同級生が集まってできたクラブなのですが、もともと私自身は「歴史」というものに、あまり関心がありませんでした、というより、ほとんど興味がありませんでした。学校で習う「歴史」は面白くなかったですし、年号や人の名前、土地の名前・戦の名前など、ひたすら覚えるのは苦痛でしかない……、そんな生徒でした。

ただ、テレビで流れる時代劇は大好きでした。『大岡越前』から、『遠山の金さん』『水戸黄門』や『暴れん坊将軍』など。そして、『必殺仕事人』やNHKの大河ドラマまで。最近では、女同士の苦悩を描いた傑作の『大奥』などは、再放送でも飛びついて観るほどです。歴史の授業も、こんなふうにドラマ仕立てにしてくれたら一発で覚えるのに……と、いつもそんなふうに思っていました。

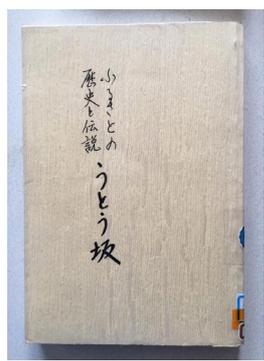
そんな私が、なぜ、いきなりクラブを立ち上げてまで、歴史にのめり込むようになったのか、その理由は2つあります。まず一つは、「松平さん」という方と、たまたま知り合いになったからです。その「松平さん」から話を伺うと、なんと、ご先祖は「徳川家康」と同じ、「松平」だと言われるのです。一緒に家系図をたどってみると、確かに松平家の家系図に、「松平さん」のご先祖様のお名前が出てくるではありませんか。私は軽く、カルチャーショックを受けました。いままで教科書や授業で登場した人物は、教科書の中だけではなく、本当に生きていたのです。さすが、徳川家康のお膝元、岡崎市です。

そして二つ目は、自分の地元でもある矢作の知り合いの方から、

「岡崎市には徳川家康以前にもすばらしい歴史がたくさんある。それらを調べてほしい」と、そう頼まれたからです。徳川以前の歴史とは、いったいどういうことなのでしょう。調べ始めてみると、面白い事が次々出てきました。この矢作地区というのがまた、歴史の宝庫だったのです。世界の古代文明が、どこも大きな川を中心に文化を作り上げたように、矢作もまた、矢作川を重要なポイントとして、東西南北の中継地点となっていたのです。陸路はもちろんありましたが、水路の方が早くて、たくさんの荷物と人を運ぶことができる、最も重要な交通手段だったのです。

知人が熱く語られる徳川以前の歴史とは、いったい、なんなのだろう？ それを知るにはまず、地元の歴史を知らなくてはなりません。歴史の授業には興味のなかった私ですが、調べる事や本を読む事は大好きでしたので、好奇心をそそられた私は、さっそく岡崎市の中央図書館である「りぶら」へ走りしました。地元の歴史を知るには、りぶら1階レファレンスライブラリーにある、「地域資料」というコーナーがとても便利です。岡崎市や愛知県に関する資料の閲覧ができる場所だからです。そしてここは、徳川家康公に関わる本や資料が集められている場所としても有名です。

私はまず、『岡崎市史』のさらに『矢作編』をみつけました。そしてそこから『長瀬今昔』『うとう坂』という、地元の方が出版した本を手取る事になります。それらはなんと、地元の方も知らないような、伝説や伝承、いいつたえの宝庫だったのです。……つづく



三河の山中に残る古代道



歴史取材中に会った、秋桜畑



『長瀬今昔』	矢作北郷土研究会／編	矢作北郷土研究会	233
『うとう坂』ふるさとの歴史と伝説	黒野勝重／著	[黒野勝重]	215.5



Libra lon vol.47 2017/12/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 携帯電話：070-5252-7263
lsc-office@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp 事務局：月・火・木・金：13:30～16:30

そうだ！りぶらをサポートしよう！
(1) 活動サポーター（登録のみ）
(2) 賛助サポーター（年会費）2,000円
随時、ご寄付も受け付けています。